

今日から学校での授業が再開されました。みんな、元気でやっていますか。今週は四校時授業ですが、体調を早く学校モードに戻してください。

体力的に落ちてきているでしょうから、低学年の給食後の遊び時間や、高学年の終礼前の遊び時間に張り切りすぎませんように。くれぐれもけがには注意してください。

さて、教室のカレンダーの昨日の所、つまり九月二十六日の所に「台風襲来の特異日」と書いてありませんか。あつ、今調べなくていいから、休み時間に眺めてみてください。同じ字が九月十七日の所にも発見できるはずです。

この「特異日」というのは、一年のうちで、ある特定の天気が見れやすい日のことを言います。つまり、「台風襲来の特異日」というのは、台風がやってきやすい日のことになります。実際、先々週の九月十七日(金)に、台風十四号が日本列島を駆け抜け、大雨・強風の被害が出ました。

このように、昔から九月十七日と二十六日は、実際に台風が襲ってきやすいのです。今から六十年以上も前の九月二十六日の話。

夕刻から夜にかけて、大型の台風十五号が北海道を襲いました。とりわけ被害が大きかったのは、青森と函館を結ぶ青函連絡船の「洞爺丸」です。

今は、青森と函館は青函トンネルというト

ンネルで結ばれ、電車が海底を通るようになったので、青函連絡船は無くなりましたが、この当時「洞爺丸」は、最新式のスマートな船で、どんな嵐に遭っても沈まないと思われていました。その洞爺丸が転覆、沈没。犠牲者は千人をはるかに超え、あの「タイタニック号」に次ぐ、世界で第二番目に有名な海難事故と言われています。犠牲者の中に二人の外国人がいました。一人はカナダ人のストーンさん。もう一人はアメリカ人のリーパーさん。二人とも日本にキリスト教を広めるためにやってきた人たちです。



乗客は大波にもまれ、沈没寸前の船の中でパニック状態。ストーンさんとリーパーさんは、慌てたり、泣き叫んだりする乗客をなだめ、リーパーさんは得意の手工を披露して、船内の空気を和らげることが努力したそうです。そして、いよいよ沈没が避けられなくな

った時、乗客を励ましつつ、救命胴衣を着ける手助けをし、二人とも自分の救命胴衣を日本人に手渡し、海に沈んでいったそうです。

ヨハネによる福音書に「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」という言葉があります。確かにそうかもしれません。君たちにはまだまだ早すぎのようです。ストーンさんやリーパーさんのように、神様とお話しできる修行を積

んだ人ならいざ知らず、私なんぞには、とてもまねできそうにありません。

では、私や君たちはどうするべきなのか。「友のために自分の命を捨てる」のではなく、「友のために生きる。まっすぐに生きる。」これ、です。「まっすぐ」の意味は色々ありますが、分かりやすく言えば「曲がらない・正しい・正直・素直・真面目・誠実・律儀」というようなことです。ちなみに江戸っ子は「まっつぐ」と発音したようです。

今日から再開される給食の時間に、教頭先生から君たちへ大事なメッセージが映像で流される予定です。「まっすぐに生きる」ためにもよく聴いてください。給食の時間、久しぶりに会ったみんなと楽しくお話したい気持ちとはとてもよく分かりますが、文字通りまっすぐ前を向いて、食事中の会話はゼロに。素直に真面目に取り組むことが、感染を避けること、「友のために生きる」ことにつながります。

始業礼拝の時に話ししましたが、「借り」の返し方はいろいろあります。「生きていく」ということは、誰かに借りをつくること。生きていくということは、その借りを返していくこと。家族の方々に、まだまだ借りを返していない人ばかりのはずです。「友のために自分の命を捨てる」のではなく、家族や友のために「まっつぐに生きて」いってください。

(立教小学校校長 田代 正行)